

2017年度「サンチャゴ巡礼道」を歩く メンバー紹介



桃井 和馬（もい かずま） 写真家・桜美林大学 客員教授

桜美林大学のサンティアゴ巡礼プロジェクトも3回目を迎えます。

今回一緒に歩くのは12人の学生と私の計13人。

9月の選考後から、事あるごとにメンバーが集まり、また2日間で50キロを歩く、通称「地獄の2days」も体験。

ちなみに、ただ50キロを歩くのなら、それほど難しいことはありません。しかし、メンバーには、ザックの重さを知ってもらいたく、最低13キロにザックの重さを調整してくるようお願いしました。中には、バーベルを入れて20キロ近くのザックを背負い続けた者もいたのです。13キロは想像以上に重く、それぞれの肩にザックがくい込んでいました。（蛇足ですが、本番の荷物は8～10キロが推奨です）

これまで何度も顔を合わせ続けたことで、それぞれの個性が幾分見えてきました。

13の個性が出会い、時にはぶつかり、時には助け合い、融合する中で、巡礼が続くのです。

毎回思うのですが、集まるメンバーによって、プロジェクトはまったく異なるキャラクターを持ちます。「チーム」は生き物なのです。

また、「幾分見えてきた」という個性も、しょせん、基本的に冷暖房が完備し、食べ物も十分にある日本での個性にすぎません。

足に強烈な痛みが走り、限界近くまで体力が奪われた状態においては、自分も知らない自分が露呈するのです。

今回は、サンティアゴ巡礼を経験した者がメンバーの中に3人います。

「自分も知らない自分が露呈する」瞬間、彼らは決まって「This is Santiago!」と、喜びとも、驚きとも取れる声を発するのです。

足に巨大なマメができ、足を一歩前に出すたびに痛みが脳にズキズキと響く瞬間は「This is Santiago!」。

20キロ歩いた後、開いていると思ったお店が閉まっていた、次の店まであと5キロ歩かなくては食べ物にありつけない時も「This is Santiago!」。

歩きすぎて疲れ過ぎて、歩いているのか、歩いていないのかさえ分からなくなる時も「This is Santiago!」。

心の奥底に仕舞っていた自分だけの暗い過去や、哀しい思い出を、一緒に歩く仲間打ち明け、話し続ける時も心に浮かぶ言葉は「This is Santiago!」。

想像を越える苦痛。想像を越える空腹。想像を越える荷物の重さ。想像を越えた濃い人間関係。そうしたものを前に、再びサンティアゴの道を歩きたいと決断した者たちは、拒否したり、否定するのではなく、「これがサンティアゴだよ!」と腹の底からその状態を楽しむのです。

「お金をかけて、スペインに飛び、それでもって43日間歩き続けるの?」

これが、すべての参加者が日本の友人たちから繰り返し訊かれた問いです。

飛行機でなら1時間。自動車なら8時間で到着してしまう830キロの道のり。

それをただひたすらに歩く。理由は、きっと「This is Santiago!」な瞬間を体験したいからなのでしょう。

さて今回は、このメンバーで、どんなサンティアゴを体験するのでしょうか。



竹内 和奏（たけうち わかな） ビジネスマネジメント学群 1年

今回、私は43日間のサンチャゴ巡礼に参加して本当の仲間、本当の自分を見つけたいです。

自分が本当にしたいことは何なのか、仲間のために今自分が出来ることは何なのか、そのような事を深く考える43日間になればと思っています。

また、私は今回が初めての海外渡航なのですが、日本を離れることで今まで分からなかった日本の良さにも気づけたらいいなと思っています。

応援よろしくお願い致します。



下川 結衣（しもかわ ゆい） リベラルアーツ学群 1年

世界遺産 サンチャゴ巡礼道を歩く旅～北の道～

壁に貼られた「世界遺産」の文字。見た瞬間、何か運命を感じました。

高3の冬に世界遺産検定の勉強をしていくうちに、世界には素晴らしい景観がたくさんあることを知りました。初海外でスペインの世界遺産を歩くというのはなかなかできないことだと思い、参加することを決めました。

フラダンス、スキューバダイビング、バンジージャンプ、国際交流…「興味を持ったらすぐ行動に移す」、大学生になってから行動可能範囲が広がり、自分がやりたい事を進んでやることを心がけました。心配しながらも私の意思を尊重し応援してくれる親に感謝しています。

挑戦して無駄になることはないと思います。経験してこそ何かを得られるチャンスです。中・高の部活動やアルバイトで得られたものは大きいし、その経験を活かして過ごしてきたからこそ今の自分がいます。

43日間家族以外の他人と共に生活をする。10kg以上のザックを背負いながら800kmを歩く。寝る場所、食べ物の確実な保証はない。これまで経験したことのない生活が私を待っています。仲間と共に新たな発見・経験をし、自分としっかり向き合い、成長する旅にします！

よろしくお願い致します。



服部 隆汰（はっとり りゅうた） 健康福祉学群社会福祉専修 1年

自分を変えるためにサンチャゴ巡礼に行きたいと思っています。決断が遅い自分。何事も中途半端になってしまってる自分。漠然と生きている自分。

道を歩いて、1人で自分を見つめ直したり、時にはみんなと話し合ったり、たまにはふざけあったりして自分にはなにができるのか、なにがまだまだ足りてないことなのか、将来どんな人になりたいのか。そんなことを考え、自分を知り改められる旅をしてみたいと思いました。

また、まだ海外に行ったことがなかったので、世界を歩いて、その街、文化を知れるなんてなかなかできることではないし、興味がとても湧いてきたので参加しようと思いました。



大澤 杏子 (おおさわ あんず) 桜美林大学リベラルアーツ学群 2年

射手座生まれです。

いろんな景色を見てみたくて、参加しました。

このメンバーとの出逢いを通じて何か変わるきっかけにしたいです。

生まれてはじめての経験になりますか

サンチャゴまでの800km、歩き通したいです！



飯森 弘樹 (いもりこうき)リベラルアーツ学群 2年 国際協力専攻

趣味は、旅行と写真を撮ること。

好きな食べ物は、いちご with 練乳

今回、最後のサンチャゴ巡礼に参加できる事を本当に嬉しく思います。前回は留学と期間が重なってしまったので行けなかったのですが、前回のサンチャゴ巡礼に参加した友人が本当に成長した姿を見て、今回こそは絶対行きたい！という気持ちがありました。

今回のサンチャゴ巡礼は1番長い距離というのもあり、ワクワクな気持ちもあるが、本心は『心配』な面の方が大きいです。しかし、この心配をメンバーと共に乗り越える事、本当に楽しみです。毎日が新しい日。この期間、機会、全てに感謝してサンチャゴ巡礼頑張ります！



今井 克明 (いまい かつあき)リベラルアーツ学群 2年

本が好きです。

今回の800kmを超える行程の中で、時間は山ほどあります。

その中で、「面倒臭い」や「苦勞したくない」の言い訳に「忙しい」は使えません。

だからこそ私が今まで経験したことの総体として、私の信じている『偏見』を、圧倒的な自然に、また他の誰かの持っている『偏見』と徹底的に対峙させることができる、はずです。

沈黙と対話を繰り返す中で、私が本当にしたいことが何で、どういうものなのかを確かめたいと思います。



伊藤 優嬉 (いとう ゆうき) リベラルアーツ学群 2年

はじめまして！この度サンティアゴ巡礼プロジェクトに参加させていただけることになりました、伊藤優嬉 (いとうゆうき) と申します。

タイ・ラオス・中国をめぐる旅が終わり、秋学期が始まろうとしていた頃、様々な巡り合わせや出会いがあり本プロジェクトを知るに至りました。

既にメンバー間の交流が多く仲良くなってきてはいますが、それはあくまで表層的な部分でしかなく、体力と精神がギリギリになりお互いの本性が現れる巡礼では、いとも容易く今の関係は崩れ去り、ぶつかり合うことになるでしょう。

私はそこにこそ、巡礼の意味があるのではないかと思います。

相手を知ることによって自分を知り、自分を知ることによって相手をより深く理解することができる。ぶつかり合いを通して互いが溶け合い、世界を一気に広げることができる。こんな機会はそうそうない。だって誰しも相手と波風立てたくないじゃないですか。少なくとも私はそうでした。

しかし最近気づいたのです。ぶつかり合うことなく付き合ってきた人と果たして今も交流があるのか。

全くない。

情熱を持って熱くぶつかり合った人は、人間的な付き合いを今も続けられています。だからこそぶつかり合うことは大切なことなのでしょう。

しかし、そのぶつかり合いは自分の意見の正しさを証明する勝敗のあるぶつかり合いであってはならず、必ず相手のことを尊重したいぶつかり合いでなければいけません。勝敗のあるぶつかり合いは様々なチャンスを食い潰してしまいます。そこはしっかり気を付けて、私はこの巡礼を最高のものにしてきます。この機会をくださり送り出してくれる全てに感謝しかありません。

いよいよ巡礼まで残り一ヶ月を切りました。毎日毎日ワクワクが止まらない。



富田 望 (とみた のぞみ) LA 学群 2年 国際協力専攻

私は1人が好きでした。周りの目を気にしてしまうので人と関わるのがとにかく怖かった。

でもそれは留学を通して、1人旅を通して私の考えを180度変えてしまいました。

1人は寂しい。人と関わる前から拒否したらつまらない。

そう考えられるようになって秋学期がはじまり、サンチャゴの募集をみて1人旅とみんなで行く旅の違いを知りたい、まだまだ未知の世界に触れたいと思いました。

人と関わることに興味が出てきた私は何を感じて、自分の世界をさらにどう広げられるか、たくさん不安はありますが800km先の想像もつかないゴールを目指して自分の力のある限り頑張りたいと思います。



赤澤あゆな（あかざわ あゆな）リベラルアーツ学群 2年

こんにちは。

今回サンチャゴ巡礼に参加します、LA 学群 2年 日本語教育専攻・国際関係副専攻

赤澤あゆなです。

好きな食べ物：寿司・ケバブ・生姜・豚汁

好きな色：紺・ベージュ・黒

好きなこと：言語を学ぶことが好きです。英語よりドイツ語がちょびっと話せます。スペイン語は1年の時に履修していましたが、もう忘れました。Hablo un poco de español.

出身：長野県白馬村出身です。アルペンスキーを長くやってきました。SGが大好きです。SLも好きです。

最近：カフェオレが飲めるようになりました。

スキーの海外遠征及びホームステイ、留学で韓国、アメリカ、中国、そしてヨーロッパをさんざん周り、もう海外は行かない。日本にいる。と決め込んでいました。

日本の良さ、日本について無知だった自分に気がつき大学へ進学。また、現在までに5つの言語に触れ、やっぱり日本語って変な言語だ！と思い、今の日本語教育専攻に至っています。

留学時、ドイツ人に小さな石をさしながら”日本はこれも神様何でしょ？”と言われたことが今でも忘れられません。日本人にとって宗教ってなんだ？と思い始めたのは高2の時。日本の政治や社会、文化と歴史、そして日本の宗教について質問されても、うまく答えられなかった悔しさが今でも残っています。

それだけ自分は興味を広く持てず、現状に満足し、一歩も踏み出せていなかった事に気がつきました。全然まだまだ、勉強途中です。そしてまだまだ日本人！と胸を張れません。それが海外へ行くことを拒む元となっていたのかもしれませんが。そんな時、再びわたしを世界へ出ようと思わせてくれたのがサンチャゴ巡礼でした。



山崎 万里奈（やまざき まりな）リベラルアーツ学群 2年

第3回サンチャゴ巡礼のリーダーをさせて頂く事になりました。

リベラルアーツ学群 2年

山崎 万里奈 (Yamazaki Marina) 20歳です。

将来は dancer になります。

dancer name は Mahrina です。

私が今回のサンチャゴに込める想いは

「経験をつなぐ」という事です。

その為に、私は自分の出来る範囲で2回目に参加した時の経験は勿論、今までの経験から学んだ事を伝えていけたらなと思っております。

そして、個人的には「幸せ」の意味を考えて歩きます。

沢山の刺激の中で自分がどうなるのか。

決して楽ではないこの旅で何を見て、何を感じ、何を幸せと思うか。

成長したい人へ。(自分も含む)

今から書く事は、私から私への忠告でもあります。

成長したい。それだけでは変わらない。

完璧な人などいない。

「得たい」ともがくより、目の前にあるチャンスや発見に自分で気づけるか。

そして、それをどうするか。

人の話を良く聴け。

そして、熱く語れ。

後悔する道を選ばぬ。

以上です。

宜しくお願いします！

I hope you can say “happy” when you look back on all.



ダバンテス ジャンウィル リベラルアーツ学群 2年

初めまして！！

今回、サンチャゴ巡礼リーダーになりました。

LA学群2年のダバンテスジャンウィルです！

2017年の2回目サンチャゴ巡礼に参加し今回は、3回目のサンチャゴ巡礼のメンバーそして、リーダーとして選ばれました。よろしくお願いします。

以前参加した時は、一年生自分のことしか考えずにいました。

今は、二年生サンチャゴ巡礼のおかげで元々の、自分の宗教であるキリスト教に興味を持ち。

キリスト教もちろん、他の宗教にも焦点を当て現在、勉強中。

前回は、なにも知らない状態で参加し全てが初めてでした。

スペインに、行くことも、見知らぬ11人のメンバーとの共同生活も初めてで不安だらけでした。

新しい体験。挑戦の日々が待っていました。

そのおかげで、成長するきっかけを作ることができました。

今回は、リーダーとして以前参加者として、新メンバーに何か刺激を与えたいという気持ちが多くあります。

巡礼中にも以前とは、違う道を歩き今回の方が、厳しい道となっています。

しかし、リーダーとしてみんなを無事に日本まで連れて帰ります！



芳野 貴洋リベラルアーツ学群 3年 コミュニケーション学・メディア〈ジャーナリズム〉専攻

今年も再び挑戦させていただきます。リベラルアーツ学群3年、コミュニケーション学・メディア〈ジャーナリズム〉専攻の芳野 貴洋(よしの たかひろ)です。宜しくお願ひ致します。

昨年の春に今回のリーダー2人や桃井先生と共に巡礼を終えました。今回が2回目の挑戦になります。完全にサンティアゴ巡礼道に魅了されてしまったようです。

前回の巡礼を通じて、自分がどれほどまでに未熟であるかということを読み知らされました。当時の私は、アメリカでの3ヶ月間の語学留学を終えた後に、自分の英語力に自信がついたためか、完全に奢り高くなっていました。英語でコミュニケーションを取ることに面白味を覚えたのは良いものの、それ故に自分はまるで偉くなったかのように勘違いし、優越感に浸っていたのです。背伸びを通り越し、地に足がついていなかったという表現が適切であると思います。

しかし、旅を進めていくに連れて、自分は何も知ら無いのにも関わらず、全てを知った気でいたことに気づかされました。巡礼道は「気づきの場」です。歩く事を通じて、様々な「初めて」に遭遇します。普段は目を背けていた嫌いな自分とも向き合わなければなりません。どんなに憎たらしいと思った仲間がいたとしても共に過ごさなければならない。周りを見せたくない部分を隠し通す事もできない。そのような環境の中で40日間という月日を過ごさなければならないのです。巡礼をすることの意味は何であるかと自分に問い続けました。そのようなことをひたすら考え続けながら歩いたのです。思考し続ける事は決して容易な事ではありません。しかし、ひたすら考えながら歩き続ける生活をした結果、本当に大切なモノに気づけました。

それは真の「豊かさ」でした。人々の豊かさとは、物質的なものではなく、より深く掘り下げた心の根底に存在する幸福感のことです。

その幸福感を体感する事こそが巡礼をする最大の意味であると信じています。そのためにも、必要最低のモノとお金での生活を実践せねばならないのです。

今回歩く道はフランス人の道ではなく、北の道です。加えて、前回とは異なる、新しいメンバーと共に新たな道を歩んで行きます。決して驕らず、謙虚にい続けることを目標に、そう自分に言い聞かせながら43日間を価値のあるものにしたいです。